

令和3年度狛江市総合防災訓練の課題と対応方針について

令和3年度狛江市総合防災訓練の実施結果を踏まえた課題と対応方針については以下のとおりです。

詳細については別紙を参照してください。

1 課題の抽出

職員アンケート、見学評価シート、市民アンケート及び避難所運営協議会からの振り返りを取りまとめ、特に意見が多かったものから抽出し、「1 訓練の実施方法（事前準備含む）に関すること、2 備蓄品に関すること、3 避難スペースに関すること（誘導・動線含む）、4 人員の配置や参集時の携行品に関すること、5 市民アンケート集計結果（課題や意見）に関すること、6 避難所運営協議会からの意見」の6項目に分類し、整理した。

2 対応方針

安心安全課で現行の体制から対応可能な方針及び今後検討を要する対応などを整理した。対応方針により、新たに予算要求を行った項目については、その旨表記した。

3 今後の対応

(1) 対応可能な項目について

即時対応が可能な項目については、令和3年度中の対応完了を目標とし、避難所運営協議会等との細部の調整が必要な項目については、令和4年度の総合防災訓練までの対応完了を目標とし、可能なものは水防訓練で実践する。

(2) 予算措置を検討する項目について

早期に対応できるものは令和4年度予算案に計上し、他の項目は実現に向け継続的に必要性を検証する。

(3) 継続検討が必要な項目について

避難所内の動線やペットの対応、避難所運営協議会との役割分担等、継続して検討が必要な項目については、避難所運営協議会連絡会や訓練に伴う打合せ等の機会を捉え、検討を重ねていく。

1 訓練の実施方法（事前準備含む）に関すること		
課題	対応方針	
① 文字だけのフローを説明会や連絡会で配布するだけでは不十分である。	① 図や写真で設置方法や掲示場所を示した手順書や配置図を作成する。	対応
② 実施方法や役割分担などについて市役所の避難所担当職員と避難所運営協議会との間で事前の打合せが必要である。 打合せが実施できなかった避難所は意思疎通が上手くいかず、開設準備が遅れた避難所もあった。	② 各対象別に説明会を実施し、訓練内容について把握した上で避難所ごとに市職員と避難所運営協議会を集め、事前打合せを実施する。	対応
③ 会場ごとに訓練終了時間にズレがあり、終了予定時刻(11時30分)前に撤収が行われた避難所があった。 9時30分から11時30分までと広報しているため、市民のためにも時間は守られるべきであった。	③ 9時30分から11時30分までの時間割は、ボランティアである避難所運営協議会を拘束するには長時間との意見があった。 今後は市民の受付時間を示すことや訓練時間の短縮を検討し、時間を明確に広報する。	検討
④ 建物安全確認の重要性が認識されておらず、誰が実施するかも明確でない。	④ 建物安全確認は、避難所の開設に際し、市職員、協議会、学校関係者が協力して実施するものとしている。 実施方法についてはマニュアルに記載してあるとともに備蓄倉庫にあるBOXに収納してある。	対応
⑤ 業務の都合で説明会に出席できない外部職員（保育士等）への説明が資料配布のみとなった。	⑤ 今回の訓練の説明会は、資料と説明を合わせて実施する必要がある構成としていたため、資料のみで理解するのは困難であった。 実際には避難所の開設（初動）が一番混乱する部分であるため、初動に特化した手順書などを作成する。	対応
⑥ 見学者として参加すると運営する時に気づけなかった細かい点が良く分かり、良い経験になった。	⑥ 施設の条件が異なる会場を見学しても意味がない旨の意見もあり、実施方法を検討する。	検討
⑦ 避難所の運営を行う方は全員名札を付けていただきたい。一般市民の参加者と区別がつかない。	⑦ 避難所運営にかかわる職員は全員青ベストを着用する。また、避難所運営協議会でビブスの数が足りない場合は適宜の方法で班名などを記入し衣類等に貼付するなどの方法を検討する。 校長、副校長は防災服を用意する。	予算
⑧ 避難所運営訓練と市民の体験がメインの防災訓練を同時に実施するべきではない。	⑧ 総合防災訓練という趣旨で避難所運営訓練と市民に対する体験や見学を合わせて実施している。	検討
⑨ 避難スペースには限界があるので在宅避難をもっと広報するべきだ。	⑨ 全戸配布の「安心安全通信」や市ホームページなどで機会ある度に広報している。	対応
⑩ 全体的に人手が足りない感じがした。避難者がお客様にならないよう、市民が互いに協力できるような訓練も実施する必要がある。	⑩ 避難所運営への協力を促すための効果的な訓練や広報について検討する。防災ガイドや安心安全通信などでは小さい枠ではあるが継続的に記載されている。	検討

2 備蓄品に関すること		
課題	対応方針	
① 本部などの各 BOX に入っている一覧だけではなく、全体の一覧があるとどこにあるか分かって良い。	① 作成する。	対応
② 受付はこちらという矢印もたくさんあったほうが良い 縦書きの矢印だけではなく、横書きの矢印もあったほうが良い。	② 作成する。	対応
③ 案内図は A5 サイズでは小さすぎて見づらい、持ちやすさを優先したが、見えなくては意味がない。	③ A4 で作成する。	対応
④ 養生テープは1箱に1つずつ入れたが、足りなくなり、訓練用だけではなく本番用が使われていた。	④ 1箱に2～3個入れ、本番用を使わないように周知する。	対応
⑤ 市長以下各部長等が訓練会場を視察した際に、役職が分かる表示がなく、市長（各部長等含む）が市民等に認識されないことがあった。	⑤ 災対服着用時に役職を表示できる手段を検討する。 (案) 腕章など	予算
⑥ 現在備蓄している非接触型温度計は使用環境温度が16℃～40℃までとされており、冬季の使用は難しい。	⑥ 医療用の非接触体温計は10℃から使用可能であるためそちらの備蓄を検討する。 (ワクチン接種室で使用されているもの。)	予算
⑦ 福祉避難スペースの高齢者・障がい者用としてエアベッドを備蓄しているが、寝起きが不自由な方には低すぎて(約20cm)適さない。(訓練に参加した看護師ボランティアからの意見)	⑦ エアベッドよりも高さのあるベッド(約30cm)を寝起きが不自由な方用として備蓄を検討する。 現行のエアベッドは様々な用途に使用できるため継続して備蓄する。	予算
⑧ 避難所の代表者が明確に分かるよう表示すべき。また、市職員、協議会、教員が判別できなかった。	⑧ 今回は、代表者は赤い腕章(「代表者」と記載)を付けたが、各団体別にはビブスの導入を検討する。(市職員は青ベストを着用)	検討
⑨ 靴カバーを導入し、避難者を校舎内へ案内している避難所があった。	⑨ 原則的には避難時は上履きを持参することとしている。靴カバーに履き替える手間と上履きに履き替える手間は同じと思慮する。また、滑りやすい点や破損しやすい点からも靴カバーは推奨しない。引き続き上履きの持参を広報する。	検討

3 避難スペースに関すること（誘導・動線含む）

課題	対応方針	
① どこにどのようにスペースを設置するか、掲示するかが分からない。	① 図や写真で設置方法や掲示場所を示した手順書や配置図を作成する。	対応
② 各パート（検温・問診・受付・各スペース）の設置例があるとよい。各避難所ごとでなくともイメージが分かる資料があるとよい。	② ①と同様。	対応
③ 高齢者・障がい者・発熱者等が2階以上の階への避難は難しい。	③ 歩行が困難な方についてはなるべく1階に避難スペースを設けることとしているが、施設によっては1階に使用可能な教室が足りないなどの問題がある。また、運営の都合上、福祉避難スペースや専用スペースは可能な限り同じフロアに設置しており、全てを1階にすることは難しい。	検討
④ 検温は流れていたが、用紙を記入する受付で人が滞留していた。	④ 受付票記入台については、適宜、数を増やして対応することとする。	対応
⑤ 入口を二箇所設置した避難所は動線が混線していた。	⑤ 入口は一箇所にして動線を一方通行にした方がよい。そのためには明確な誘導が必要。（掲示物、人員の両面で）	検討

4 人員の配置や参集時の携行品に関すること		
課題	対応方針	
<p>① 避難所を開設、運営する職員は教育部担当、初動要員、保育士が配置されているが、このうち初動要員は避難所を開設し教育部担当に引き継いだら所属する各災対部に戻ることでなっている。感染症対策で避難所へ派遣する職員が多く求められる中現行の体制を継続するのは難しい。</p> <p>また、施設、下水、道路などインフラを担当する所属の職員が初動要員として配置されており、災害時の避難所開設にかかわるのは難しい。</p>	<p>① 初動要員は市内や隣接地域に居住する職員が指定されており、対象者が減少している中、現行の初動要員体制を変更することは難しい。</p>	検討
<p>② 市職員、避難所運営協議会ともに名札を着用し、避難所で初めて会ってもお互いが確認できるようにするべきだ。</p>	<p>② 各自の名札については、当日にテープなどへ各自で所属や名前を書いて衣類などに貼付する。</p>	対応
<p>③ 各避難所では、初期避難者受付カードと避難者用ネームカードにより避難者数を把握し、避難者数を本部に報告することでバカンを適切に運用することができた。</p> <p>また、避難者情報の管理として、回収した初期避難者受付カードをA I - O C Rで読み込み、データ化することで避難者情報を本部で一元管理することが有効であることが分かった。</p>	<p>③ A I - O C Rで初期避難者受付カードを読み込むにあたり、避難者に対し個人情報に関する同意を得るためのチェック項目を設けるとともに（今回は臨時に作成）、各避難所にて初期避難者受付カードを災対本部へ送付又は持参し、データ化する。</p> <p>初期避難者受付カードは原本をスキャンする必要があるため、各避難所でスキャンできる方法や機材について、平常時における活用も含めて検討する。</p>	検討
<p>④ S I M端末を市役所から持ち出す想定は現実的ではない。（実際は直接避難所へ向かうこととなるため）</p>	<p>④ 情報政策課が災害時対応用として保有するSIM 端末（13 台）を活用し、水害時は教育部担当職員、震災時は教育部担当職員又は市役所から派遣される職員が、市役所から持ち出すなどで対応する。</p>	対応
<p>⑤ 検温・問診や専用スペース(途中の動線も含む)は市役所職員で担当すべきとの意見がある。明確に役割分担すべきか。</p>	<p>⑤ 実災害時は市役所職員も協議会も誰がいつ参集できるか分からないため、誰もが何処でも担当できるようにしておくべきである。</p> <p>一方で協議会はボランティアであるため感染の危険がある区域での活動に了承が得られないなどの意見もあり、検討を要する。</p>	検討
<p>⑥ 地震の際はヘルメットを被る必要があるが、家庭に備蓄している職員はいない。担当職員用は備蓄しておくべきである。</p>	<p>⑥ 備蓄倉庫内にある建物安全確認用のヘルメットを活用する。</p> <p>職員専用のヘルメットの備蓄については検討する。</p>	検討

5 市民アンケート集計結果（課題や意見）に関すること		
課題	対応方針	
① 避難所の受け入れ可能人数が少ない。	① 公共施設が少なく、新型コロナウイルス感染症対策のため、従前より受け入れ可能人数が減ってしまった。公共施設はほぼ避難所として使用する方針にしており、増やすことは困難であるため、自宅の耐震補強、避難所以外の避難先の検討などを繰り返し周知する。	対応
② 防災訓練の開始時間を一般市民の避難訓練の開始と同時刻に戻し、サイレンを流すのはどうか。	② 新型コロナウイルス感染症の対策により、避難所受け入れ前の準備が複雑化したため、避難訓練の開始時刻を遅らせることとした。一般市民の参加者に対し、避難所開設への協力を求めることや訓練開始時のサイレンの吹鳴も含めて、来年度の訓練実施方法は検討する。	検討
③ 夜間の訓練に訓練を実施してはどうか。	③ 全避難所開設の一斉訓練は今回の訓練と同様の時間に実施し、夜間の訓練などについては、実施可能な方法を検討する。	検討
④ ペットの受入れはどのように行うか。	④ ペットの受入れについては、原則としてケージに入れ、飼主とは別の避難スペースとするペット同伴避難としている。 ペットと飼主が同じ避難スペースで過ごす方が良いなどの意見もあるが、避難所の収容可能人数を最大限に活用するため、引き続き、同伴避難を推進していく。	検討
⑤ 今回実施した体験に加えて、消火器の使用方法や煙体験など様々な体験がある方が良い。	⑤ 避難所運営訓練参加のきっかけづくりとして避難所での関係機関による展示を行っている。 市民アンケートからも概ね好評なので、来年度以降も引き続き関係機関の体験・展示ができるよう調整したい。	検討
⑥ 避難方法の周知やマニュアルの配布などをしてほしい。	⑥ 令和4年3月頃に発行予定の「安心安全通信」で避難方法や非常用持ち出し品のリストなどを掲載し、全戸配布する。また、紙ベースでの広報は限界があるというご意見もあったので、TwitterなどでHPに「安心安全通信」のデータを掲載していることを周知する。	対応

6 避難所運営協議会からの振り返り

◆ 第一小学校避難所

課題	対応方針
① 新校舎が、感染症対策の完全な隔離スペースとして使用できたので一般の方との接触は避けられた。しかし感染者への誘導対応はスタッフでは無理なので今後の大きな課題である。	① 可能な限り市職員が対応する。震災などで職員不在時に対応する場面においては、避難所運営協議会の方々にもご対応いただけるよう、ガウンなどの防護具を備蓄し、訓練の機会に対応を見学・体験していただく。
② 避難所では感染者の受入れは断れないので、市が別の隔離施設を用意し、感染者はすべてそちらに案内する方法を考えてほしい。	② 市内施設の被害状況を把握し、隔離施設の開設・対応をするに足りる職員が参集するのに、ある程度時間がかかる。まずは全ての避難所で受入れ、専用スペースに隔離する方法とする。
③ 事前の打合せには市役所の担当者にも入ってもらいたい。また、会議室等を使わせていただきたい。	③ 避難所運営協議会の会議は、休日または夜間に実施されることが多く、そこに担当職員が参加する場合は時間外勤務をさせる必要があるが、できる限り対応する。会議室の使用については職員の出席により、対応できる。

◆ 第三小学校避難所

課題	対応方針
① 学校側からの働きかけにより第三小学校の児童が沢山参加し、パイプ椅子の配置・撤去など会場設営に積極的に参加してもらった。 また、体育館に生徒作成の展示物（災害ポスター）も掲示できた。	① 児童の参加については地域の方からも好意的な意見があり、先生方と保護者の協力に感謝する。 防災学習も盛んになっていることから、訓練などで地域の方の目に触れる機会を作っていきたい。
② 市役所職員をはじめ、PTA やおやじの会など各団体の皆様に参加をいただき運営活動に従事いただいた。 多くの方に自主的に臨機応変に対応いただき感謝申し上げる。 特に、地域役員が高齢化している中で戦力になった。	② 新たな人員や高齢化は避難所運営協議会の共通の課題と認識しているので、今後も様々な世代の方に協力していただけるように広報や声かけを行っていく。
③ LINE での連絡網が一部メンバーだが構築できた。更に充実させたい。	③ 避難所内での連絡ツールは非常に大切である。先駆的な事例として情報提供いただきたい。
④ 起震車は人気があり終了間際まで行列ができていた。	④ 防災意識の啓発につながる展示や体験などは避難所運営訓練との並列実施が困難であるため、実施する時間帯をずらすなども考慮する。
⑤ 避難所の入場門が3つあることから、問診・検温（一か所）なので対応が難しかった。 合わせて、受付場所の設定に悩まされた。（問診の隣か、校庭か）	⑤ それぞれの門に検温・問診所を設置するほど人員がいなくても想定されるので、A3 の案内表示で対応するようにしたい。（体温計と問診票は3つずつ入れる予定）

◆ 第三中学校避難所

課題	対応方針
<p>① 学校への折衝窓口 学校に対して借用物の折衝や後始末等どこまで市と分担してやるべきか不明確であった。 例えば、電動空気入れ・サーモカメラ体温測定器をお借りできたが、校庭でのテント(受付用の)を貸して欲しい 等</p>	<p>① 避難所運営で必ず使用するもの(机、いす、使用する教室)については、小中学校を実施会場とする段階で予め安心安全課から学校へ依頼するが、細かい借用品などは個別にご対応いただいて構わない。</p>
<p>② 手話・要約筆者との窓口 こちらから市への問い合わせで参加が分かった状態で、必要な用具や実施段取り等十分なすり合わせができなかった。当方として参加依頼もしていないし、打合せ窓口も分からない状態であった。市が把握しておくべきではないか。市が把握しきれないのであれば、事前に当該団体と運協との橋渡しをしてくれれば、協議会が直接調整を行うことが可能であった。</p>	<p>② 手話通訳者等は、相手方団体の意向で参加をいただいている。 今後も参加が見込まれるため、決まった段階ですぐに周知できるようにする。 団体側も誰がどの避難所に参集するのか決まっているので、詳細な調整は個別に実施していただくのが良いという意見もあり、次回の訓練の際に検討する。</p>
<p>③ ボランティア班の引き上げ ボランティア班の業務の一つとして、グラウンドから受付への避難者誘導を行っているが、体育館内の説明の時間となったので、運協本部の了解のもと引き上げたが、タイミング的に早かった。 これは、ボランティア班も体育館内の説明会を聞くようになっており、劇場型訓練(啓蒙のための一般市民の参加)をやる限り、この問題は残る。</p>	<p>③ 人員を分ける(説明を聞く方、一般市民に対応する方)などでご対応いただきたい。</p>
<p>④ 市とのすり合わせを十分に 避難所を統括する安心安全課は、多岐にわたる他部署や関係外部と、密接な情報交換をし、実施現場である運協と十分にすり合わせる必要がある。もしくは詳細は運協と関係先両者間でやれと言うなら、すり合わせ出来る段取りをセットして欲しい。</p>	<p>④ 避難所運営協議会と関係機関(外部機関及び市職員)との事前打合せに際しては、安心安全課が窓口となって調整する。ただし、必要に応じて個別に打ち合わせができるようにするなど、柔軟に対応したい。</p>
<p>⑤ 感染症対策の今後 今回はコロナ対応と言う事で対応策を考えてきたが、コロナが終息した場合は元に戻るのか。感染症もインフルエンザ・食中毒(ノロウイルス等感染性の強いもの)等々いろいろあるが、その対応はどうするのか、基準を示して欲しい。</p>	<p>⑤ 新型コロナウイルス感染症の感染者数が減少し、重症化しない病気となったとしても、熱のある方が健康な方と同じ避難スペースになるような従来の方法に戻すことは考えられない。他の感染症への対策も必要となるので、現状から変更する予定は今のところはない。</p>
<p>⑥ 福祉スペースの管理と責任者の明確化 感染リスクが高いということで市に担当戴いた発熱スペース対応とその受付や福祉避難スペース対応は、今後も、実災害時でも市で対応してもらえるのか。 また、今回こまえ苑への移送をしたが、実際に発災した時に重篤な人、避難所では生活できない要支援者が出た場合の避難所内の責任者を早い段階で明示してほしい。</p>	<p>⑥ 福祉避難スペースの運営を職員が行うには、福祉避難所開設準備と並行して行う必要があるなど人員的な課題もある。本番や次回以降の訓練でも必ず市職員が行うということではなく、避難所担当外である市職員の訓練として実施している意味合いが強い。 避難所の責任者は市役所の職員とする。</p>

<p>⑦ 市職員の責任意識 今回市職員 8 人が参加されたが、本番ではどう いう体制を取り、何人来られるのか。 また、職員の責任意識を明確にするため、部署 からの割り当て派遣ではなく、個人に固定してい ただきたい(部署在籍期間中の腰掛では本気で取 り組みにくい)。</p>	<p>⑦ 市役所職員は地震では震度 6 弱で全員参集を 義務付けている。また、避難所を担当する職員は 6 弱でなくても災害対策本部または臨時庁議の 決定等に基づき参集を命じられる。 初動要員は個人指定だが、教育部担当職員は教 育部在籍中のみ担当となるのが現行の体制であ る。 多くの職員が訓練を行うことは、有意義である と考えているため、現行の体制を継続する。</p>
--	--

◆ 第四中学校避難所	
課題	対応方針
<p>① 行政による初動要員だけではなく、地域住民 が避難所の設営と運営が実施できるように一人 でも多くの避難所近隣住民の訓練への参加が必 須である。</p>	<p>① 市民に対し、避難所運営に協力していただける よう、継続して広報していく。</p>
<p>② 一方、今回の訓練の目的である「避難所の開 設と運営」が一部の参加者に理解が不十分であ った。</p>	<p>② 周知できるよう広報などの方策を検討する。</p>
<p>③ 季節により、特に冬場では指定避難所（第四 中学校体育館）での 2～3 日間以上の生活維持は 就眠など高齢者など一部の避難者には非常な困 難が予想される。</p>	<p>③ 学校は体育館を含め暖房が入ることとなっ ている。とはいえ、自宅とは全く異なる環境でプ ライバシーの確保も難しい避難所は、決して良い環 境とは言えない。在宅避難の広報を続ける。</p>

◆ 西和泉体育館避難所	
課題	対応方針
<p>① 従来の避難所開設の作業に感染症対策のため の人流の仕分けという作業が加わった。これまで の5班別の組織運営では新しい状況に対応する ことが困難になりつつあるように思われる。 5班体制の編成替え、少なくとも現状の班の運 用の見直しが必要かと思われる。</p>	<p>① 避難所運営協議会の班編成及び任務につい ては、これまでの訓練や各避難所運営協議会から の意見を踏まえて、検討する。</p>
<p>② 本部の人員不足による各作業に対する指揮能 力が低下している。 行政による訓練内容と各作業に対する指導と をより強化すべきであるとの意見が出ている。</p>	<p>② 各避難所担当職員に対しては、訓練の都度、説 明会を実施し適切に避難所開設ができるよう配 意している。引き続き、避難所運営協議会の本部 役員と協力し、対応する。</p>
<p>③ 行政準備の機材・道具は十分であり開設時の必 要要件に対応している。 ただし、新規の機材については操作知識・訓練 が未熟な分があり、今後このところでの習熟が必 要と思われる。アイテムによっては納入業者から の説明も視野に入れて。</p>	<p>③ 新規備蓄品については、使用方法が複雑な場合 は集合教養などの実施も検討する。避難所運営協 議会ごとの訓練を行うこともできるかと思うの で、安心安全課の担当へお気軽にお声がけいた だきたい。</p>
<p>④ 構内案内図および一般市民向けの経路案内図 の外周部分への掲示が必要</p>	<p>④ 外周部分にも掲示できるよう各避難所の掲示 物数を増やします。</p>
<p>⑤ 各ゾーンの表示につきカラーコーンなどによ るより明確な表示が望ましい。</p>	<p>⑤ 西和泉体育館は体育館内のみですべてのスペ ースを設置する必要があるため、コーンなどで仕 切る必要もあると考えられる。導入できるように 検討する。</p>